

アルゼンチン定期報告（内政・外交：2007年12月）

I. 概要

(1) 10日、フェルナンデス・デ・キルチネル新大統領が、議会において宣誓を行い、大統領に就任した。フェルナンデス新大統領は、就任後、大統領就任式に参列した各国首脳等と二国間会談を行った他、モンテビデオで開催された第34回メルコスール首脳会合に出席した。

(2) 米国FBIが、2007年8月にベネズエラ人企業家アントニーニ（米国籍も保有）が垂に持ち込んだ現金約80万ドルがフェルナンデス大統領の選挙資金に使用される予定であったとの証言を明らかにし、本件に関連した4名をマイアミで逮捕したことを巡り、フェルナンデス大統領が対米批判を行ったこと等により、垂米関係が悪化した。

(3) キルチネル前大統領が、チャベス大統領のイニシアチブによるFARCの人質3名の解放オペレーションに、垂政府代表として参加したが、同オペレーションが難航したため帰国した。また、ソマリアにおいて、「国境なき医師団」のメンバーとして活動していた垂看護師が武装勢力によって誘拐される事件が発生した。

II. 内政

1. フェルナンデス新政権の発足

(1) 大統領就任式

10日、クリスティーナ・フェルナンデス・デ・キルチネル（以下、フェルナンデス）新大統領は、議会下院本会議場において、両院議長、新閣僚、州知事、各界代表、著名人、各国からの参列者等列席の下、宣誓を行い、キルチネル大統領より大統領綬及び杖を授与され、大統領に就任した。就任後、約50分に亘り就任演説を行った。

また、フェルナンデス新大統領の宣誓後、フリオ・コボス新副大統領も宣誓を行い、副大統領に就任した。

(2) フェルナンデス新大統領の就任演説概要

(イ) 内政

(i) 現在の状況は、4年半前の2003年5月25日の状況とは異なるものである。キルチネル大統領が、自分や多くの垂人の信念の下に、この4年半の間に、2003年5月25日に我々が直面していた状況を変えたのである。

(ii) 2003年5月25日に我々が始めたプロセスの4つの基本的テーマは、制度、社会、多様化及び社会的包摂を伴う蓄積モデル、並びに世界におけるプレゼンスである。

(iii) 垂で初めて財政赤字のない統治を開始できたのも、債務削減に着手できたのも、政治主導によるものである。グローバル化した世界において、垂が然るべく自律性を持った独自の蓄積モデルを確立することによって、対IMF債務を返済することを決断したのも、政治主導によるものである。すなわち、垂人が自らを信じ始めたからこそ、こうしたことが実現できるようになったのであり、それはまさに、政治主導によるもの、

大統領府主導によるものなのである。

(iv) 我々が、亜国民に対してこれまで負ってきた債務、すなわち、最高裁判所を恥ずべきところのない、名誉あるものにするということを実現できたのは、行政府及び立法府によるものである。まだ必要とされている司法権の残りの改革に取り組む必要がある。社会や国民が、司法は、修復可能でかつ均衡のとれた価値として感じられるように改革を行わなければならない。

(ロ) 経済

(i) 既に開始されている多様化及び社会的包摂を伴う蓄積経済モデルは、何百人もの亜国民が、仕事だけではなく、より良い生活を送る希望や夢を再び取り戻すことを可能にした。蓄積モデルにおいては、農牧業と工業が相乗効果を持つということを示すことができるであろうと思う。

(ii) 我々の選挙キャンペーン中で常に述べていた(社会的)合意というのは、価格と賃金の合意ではなく、大きな目標、そして、数量化及び実証可能な目的の合意であり、その合意の後に、セクター間で合意を行うとともに、より競争力のある業種間で、或いは、投資や技術革新を要し、より我々に価値をもたらす業種間で合意を行うことである。

(ハ) 外交

(i) ラ米におけるエネルギー軸を形成するために、ベネズエラが早期にメルコスールに加盟することを期待している。食糧及びエネルギーが、それ程遠くない将来の鍵となるからである。

(ii) バスケス・ウルグアイ大統領の(大統領就任式への)参列に感謝したい。自分は、我々が有する(見解の)相違を深刻化させるようなことはしないことをお伝えしたい。同時に、現在の状況が、我々の責任に帰さないことも併せて申し上げたい。我々が、ハーグの国際司法裁判所に対して、この問題を提訴したのは、(Botnia社の)紙パルプ工場建設に際し、ウルグアイ川規約への違反があったからである。

(iii) 仏・コロンビアの国籍を有するイングリッド・ベタンクール(元大統領候補)の解放を実現するために協力するよう、サルコジ仏大統領からキルチネル大統領に呼びかけがあったことをお伝えしたい。自分は、他国の国内問題に干渉せずに外交努力を行うことにコミットしたい。亜は、(本件の)解決を図るために可能な限りの支援を行うだろう。

(iv) グローバルな世界において、マルチラテラリズムを早期に再構築することが必要であるという我々の立場を明らかにしたい。ユニラテラルな世界は不安定で、不公正な世界である。このマルチラテラリズム、そして平等が、より安定的な世界で生活することを可能にするであろう

(v) 我々は、1992年及び1994年の2回、グローバルなテロを経験している。我々がコミットしているテロとの戦いは、グローバルなテロへの恐怖が、グローバルな人権侵害を犯すことを正当化すべきではない。自分はこのロジックを信じていない。

(vi) マルビーナス諸島に対する亜の主権は、放棄することはできず、不可避な主張で

あることを改めて強調したい。国連が否定する植民地的状況が存在し、全ての国で構成されている国連が任務を果たす時が来たことを同諸島を支配している国に呼びかけた。

(3) 新閣僚及び議員の就任

(イ) 10日、フェルナンデス新政権の閣僚12名が、大統領府で宣誓を行い、それぞれ閣僚に就任した。なお、同日、5日に議会において可決・成立した省庁再編に係る法律が発効したことに伴い、教育・科学技術省が、教育省及び科学技術・生産革新省に分割され、また、内務省が所轄していた治安庁が、司法・人権省に統合され、司法・治安・人権省が新設された。

役職	氏名
首相	アルベルト・ <u>フェルナンデス</u> (Alberto FERNÁNDEZ) (再任)
外務・国際通商・宗務大臣	ホルヘ・ <u>タイアナ</u> (Jorge TAIANA) (再任)
経済・生産大臣	マルティン・ <u>ルストー</u> (Martín LOUSTEAU)
連邦企画・公共投資・サービス大臣	フリオ・ <u>デビード</u> (Julio DE VIDO) (再任)
内務大臣	フロレンシオ・ <u>ランダッソ</u> (Florencio RANDAZZO)
労働・雇用・社会保障大臣	カルロス・ <u>トマダ</u> (Carlos TOMADA) (再任)
国防大臣	ニルダ・ <u>ガレ</u> (女性) (Nilda GARRÉ) (再任)
司法・治安・人権大臣	アニバル・ <u>フェルナンデス</u> (Aníbal FERNÁNDEZ)
教育大臣	ファン・カルロス・ <u>テDESCO</u> (Juan Carlos TEDESCO)
科学技術・生産革新大臣	リノ・ <u>バラニャオ</u> (Lino BARAÑAO)
社会開発大臣	アリシア・ <u>キルチネル</u> (女性) (Alicia KIRCHNER) (再任)
厚生大臣	グラシエラ・ <u>オカーニャ</u> (女性) (Graciela OCAÑA)

(ロ) また、同日、10月28日の議会選挙で選出された上院議員及び下院議員が、それぞれ議員に就任した。なお、選挙の確定結果が出ていなかったため就任が遅れていたブエノスアイレス州選挙区の35名の下院議員は、19日、下院で宣誓を行い、下院議員に就任した。

(ハ) 新たな議会役員は以下のとおり。

(i) 上院

【議長】フリオ・コボス副大統領 (副大統領が上院議長を兼任。前メンドサ州知事。多元的協調のための戦線)

【暫定議長】ホセ・ファン・パンプーロ上院議員 (勝利のための戦線)

【副議長】ファン・カルロス・ロメーロ上院議員 (前サルタ州知事。ペロン党)

【第1副議長】ファン・カルロス・マリーノ上院議員 (急進党)

【第2副議長】ロベルト・バスアルド上院議員 (生産雇用党)

(ii) 下院

【議長】エドゥアルド・フェルネル下院議員（前フイ州知事。勝利のための戦線）

【第1副議長】パトリア・バカ・ナルバッハ下院議員（再任。勝利のための戦線）

【第2副議長】リリアナ・バションソ（急進党）

【第3副議長】マルセラ・ロドリゲス（市民連合）

2. フェルナンデス大統領とベルゴグリオ枢機卿の会談

(1) 19日、フェルナンデス大統領は、大統領府において、ベルゴグリオ枢機卿等の亜カトリック司教会議幹部と会談を行い、ベルゴグリオ枢機卿は、フェルナンデス大統領に対し、現在亜社会が抱えている問題について言及し、2007年4月に亜カトリック教会司教会議が発表した教理文書「国民の約束と次期選挙」をフェルナンデス大統領に手交した。

なお、キルチネル前大統領と亜カトリック司教会議議長ベルゴグリオ枢機卿の関係は、墮胎の合法化等に端を発する問題を巡ってギクシャクしており、同枢機卿が大統領府を訪問してキルチネル前大統領と会談を行うことはなかった。

(3) 同会談後、カトリック司教会議報道官オエステレルド司祭は、「亜国民の共通の利益のために、スムーズでかつ有益な対話が始まることを期待できる温かな会談であった」、「フェルナンデス大統領が、協調及び対話を呼びかけるならば、我々は、それに賛同する。教会は、引き続き、制度の質及び対話を行うための（良好な）環境を要求する。教会の提起する社会的課題は、政府の懸念でもある」等述べた。

3. 軍政期の人権侵害

(1) フェブレス元水上警察警視暗殺事件

(イ) 10日、軍政期（1976～83年）に4件の誘拐及び拷問等に関与した罪で逮捕されていたエクトル・フェブレス元水上警察警視が、2007年10月から開始されていた公判の判決を4日後に控え、拘留所において死亡しているのが発見された。

(ロ) 13日、司法解剖の結果、同元警視の体から青酸カリが検出され、何者かに毒殺された可能性があるとして、アロジョ・サルガド連邦判事は、同元警視の死因について調査を開始した。なお、フェブレス元警視は、軍政期にESMA（海軍機械学校。軍政期に反体制活動家の収容所となり、拷問等が行われた場所として知られている）において妊娠女性の監視等を担当しており、ESMAで生まれた子供の行方やESMAで行われた暴力について承知しており、公判においてこうした事実を明らかにされたくない何者かによって、暗殺されたと見られている。

(2) 元軍人等に対する有罪判決

18日、アリエル・リホ連邦判事は、クリスティノー・ニコライデス元陸軍参謀長、陸軍情報部の元大佐6名及びフリオ・シモン元ブエノスアイレス州警察高官に対し、1980年に亜に帰国したモントネーロス（急進左派のゲリラ・グループ）の反体制活動

家6名を誘拐・拷問した等の罪で、以下の通り、禁固刑20～25年を命じる有罪判決を下した。

- ・ルイス・アリアス・ドウバル元大佐 (禁固刑25年)
- ・サンティアゴ・オジャ元大佐 (禁固刑25年)
- ・フリオ・シモン元ブエノスアイレス州警察高官 (禁固刑23年)
- ・ワルド・ロルダン元大佐 (禁固刑23年)
- ・ファン・カルロス・グアルコ元大佐 (禁固刑23年)
- ・カルロス・フォンタナ元大佐 (禁固刑21年)
- ・パスクアル・ゲリエリ元大佐 (禁固刑20年)

(注：シモン元警察高官は、2006年8月、連邦下級裁判所により、軍政期に反体制活動家ホセ・ポプレッテ及びその家族(妻と娘)の誘拐・拷問を行なった罪で、禁固刑25年の有罪判決を受けている。)

4. モントネーロスによるテロ事件に対する連邦裁判所の判決

1976年3月24日に始まった軍政に反対の意思を示すために、同年7月2日にモントネーロスの構成員7名が、ブエノスアイレス市内の連邦警察刑事局の建物を爆破し、死者24名、負傷者60名を出したテロ事件について、21日、ブエノスアイレス市連邦裁判所が、同テロ事件の有罪性について、国際刑事法及び過去の亜最高裁の判決に鑑みれば、人道に対する罪に該当するのは、国家(及びその構成員)によるテロ及びそれに準じるものであり、同テロ事件は国家によるテロには該当せず、同テロ事件に人道に対する罪は適用されないとして、同テロ事件に関与したモントネーロスの構成員7名は時効により処罰の対象にならない旨の判断を示した。

III. 外交

1. 南米銀行

(1) 9日、亜大統領府において、キルチネル大統領(当時)、モラレス・ポリビア大統領、ルーラ伯大統領、コレア・エクアドル大統領、ドウアルテ・パラグアイ大統領及びチャベス・ベネズエラ大統領は、南米銀行設立に関する合意書に署名した。なお、バスケス・ウルグアイ大統領は、フェルナンデス大統領の就任式に参列するために訪亜した10日に署名した。

(2) 同合意書の内容は以下の通り。

(イ) 「南米銀行(BANCO DEL SUR)」という名称の国際公法上の法人格を有する開発銀行を創設する。同行は、加盟国の経済社会開発への融資を目的とする。

(ロ) 同行は、本部をベネズエラのカラカスに、副本部を亜のブエノスアイレス及びポリビアのラパスに設置する。

(ハ) 南米銀行の運営機構において、加盟各国は、民主的運営制度の下で、平等の代表権を有する。

(二) 署名各国の経済担当大臣は、南米銀行設立協定の作成プロセスを60日以内に終了させるために必要な措置を採る。

(ホ) 南米諸国連合を構成する全ての国に、南米銀行設立プロセスに参加し、設立協定に署名するよう慫慂する。

2. フェルナンデス新大統領と大統領就任式に参列した各国首脳等との会談

(1) パチェレ・チリ大統領との会談

10日、フェルナンデス大統領は、大統領府において、パチェレ・チリ大統領と会談を行った。両大統領は、今年冬に垂のエネルギー不足により、チリへの天然ガス供給が一時停止されたことを背景に、今後両国間で、チリの一般家庭に天然ガスを最低限供給すること等を含め、同問題を議論するために二国間委員会を創設することに合意した。

(2) フェリペ西皇太子との会談

11日、フェルナンデス大統領は、大統領府において、フェリペ西皇太子と会談し、二国間関係及び(コロンビアのゲリラ組織FARCにより拘束されている)イングリッド・ベタンクール元大統領候補を解放するための方策等について話し合った他、二国間関係を深化させることを再確認した。

(3) ウリベ・コロンビア大統領との会談

11日、フェルナンデス大統領は、大統領府において、ウリベ・コロンビア大統領と会談し、イングリッド・ベタンクール元大統領候補を含むFARC人質解放問題について、コロンビア政府としてFARCとの人質解放交渉を再開するよう、ウリベ大統領に求めた他、人質交換の実現に向け協力を提供する用意があることを再度伝えた。

(4) チャベス・ベネズエラ大統領との会談

11日、フェルナンデス大統領は、チャベス・ベネズエラ大統領と約1時間に亘り会談を行った。会談後、チャベス大統領は、「我々は、二国間関係をいかにして強化するかについて話し合った。垂とこれほど緊密(な関係)であることはなかった」旨述べた。

(5) ストラウス・カーンIMF専務理事との会談

11日、フェルナンデス大統領は、ストラウス・カーンIMF専務理事と会談を行った。会談後、同専務理事は、大統領府で記者会見を行い、「パリクラブの(公的債務)問題は、パリクラブと垂の間の問題であり、IMFの問題ではない。自分は、問題解決のために出来るだけのことをするつもりであり、仲介者になることはできるが、IMFは、パリクラブのメンバーではなく、この問題のアクターでもない」旨述べるとともに、「垂経済は良好だが、他のいかなる国と同様に問題はあり、インフレはそうした問題の一つであり得る。自分が行おうとしていることは、(垂の)投資拡大のために、我々がいかなる支援ができるかを検討することである」旨述べた。

(6) ベタンクール元大統領候補の母親プレシオ女史との会談

11日、フェルナンデス大統領は、大統領府において、コロンビアのイングリッド・ベタンクール元大統領候補の母親ランダ・プレシオ女史と懇談し、同女史に対し、ベタ

ンクール元大統領候補の解放に協力するために、亜はあらゆる努力を行うこと、また、人質交換を前進させるために、あらゆる種類の仲介を行う用意がある旨伝えた。

3. ベネズエラ人企業家の亜における未申告の大金所持問題

(1) 米国の動き

(イ) 12日、米国FBIは、2007年8月4日に亜国営エネルギー会社(ENARSA)がレンタル契約した小型チャーター機で亜に入国したベネズエラ人企業家アントニーニ(米国籍も保有)が、スーツケースの中に未申告の現金約80万ドルを所持しており、亜当局に同現金が押収された問題について、同現金が、10月28日の大統領選挙で当選したフェルナンデス大統領の選挙資金に使用される予定であり、アントニーニに現金の出所及び受渡先、ベネズエラ政府の役割等を明らかにしないよう圧力をかける等、米国司法当局に通知せずに、米国内で外国政府の諜報員として活動していたことが、違法行為に相当するとして、4名(ドウラン、カウフマン、マイオニカ(以上ベネズエラ人)及びワインセエレ(ウルグアイ人))をマイアミで逮捕し、マイアミ連邦地裁に告訴した(同違法行為に関わったと見られているカンチータ(ベネズエラ人)は現在逃亡中)。

なお、FBIは、上記4名の逮捕に先立ち、本件の事実関係を明らかにするために、アントニーニの協力を得て、アントニーニと上記容疑者との会話を録音する等の捜査を行っていた経緯がある。

(ロ) 17日、マイアミで行われた予審において、Mulvihill米国連邦検事は、ドウラン及びカウフマン両被告人が、アントニーニに対し、本件に関して沈黙を保つこと、及びアントニーニの娘の命を保障することと引き替えに、200万米ドルを提示していたことを明らかにした他、「4名の逮捕者は、アントニーニが協力していたことを知らずに彼と会っていた。本当の資金の出所を隠蔽させ、本問題を消し去るために、亜及びベネズエラ政府の間で合意があったことを明らかにする多くの(会話の)録音がある」等述べた。

(2) 亜政府の反応

(イ) 13日、フェルナンデス大統領は、大統領府における「ゴミ根絶プログラム」立ち上げに関する記者会見の中で、本件について触れ、「汚いオペレーション(operaciones basura)を行う人物がいる。それは地域政策における彼らのやり方である。しかし、彼らが結果を出すことはないであろう」旨述べ、(米国の)国名には言及しなかったが、暗に米国を非難し、圧力には屈しない旨述べた。

(ロ) 18日、タイアナ外相は、本件に係る亜の不快感を正式に伝えるためにウェイン駐亜米国大使を亜外務省に招致し、同大使に対し、「予想外かつ不当な形で我々に不快感を与えた」等述べ、口頭で抗議を行った。また、タイアナ外相は、「亜の空港で発生した事件であり、亜が直ちに要請している引渡しを具体化するために、必要な手続きを行うよう米国政府に要請する」旨述べ、アントニーニの引渡しを改めて要請した。

(ハ) 18日、キルチネル前大統領は、亜国営上下水道会社(AySA)が主催した式典の

演説の中で、本件について言及し、「ウェイン米国大使は、亜との関係は良好であると述べているが、マイアミで行われていることは恥ずべきことであり、（亜と）米国との関係は良好ではない。我々は、マフィアの一団に小突き回されている。自分は、逃亡しているアントニーニが亜司法の前で証言できるように、米国司法が彼を引き渡すことを願っている」等述べ、米国政府及びFBIを批判する発言を行った。

（二）19日、米国が、亜司法当局が要請するアントニーニの引渡しを行わずに、亜大統領の名誉を汚すような邪悪な謀報活動を行い、こうした米国による亜及びフェルナンデス大統領に対する名誉毀損を強く非難する決議案が、上院（全72議席）において、賛成51票、反対16票、棄権1票で、また、下院（全257議席）において、賛成128票、反対64票、棄権17票でそれぞれ承認された。

（3）亜司法の動き

（イ）13日、ガリード亜検事は、亜で本件を担当するバジェステロ連邦判事が、亜政府高官が本件に関与しているか否かについて調査を進めるために、米国に対し、FBIが4人を告訴した件に関するあらゆる情報を送付するよう要請した。

（ロ）20日、ディアス亜検事は、本事件が発覚した8月4日の2日後の6日、大統領府において、キルチネル大統領（当時）及びチャベス大統領がエネルギー関連合意の署名式を行っている際、別サロンで開催されていた同レセプションにベネズエラ石油公社（PDVSA）関係者とともにアントニーニが出席していた旨の元政府関係者の証言を明らかにした。

同証言に対し、21日、フェルナンデス首相は、アントニーニなる人物が大統領府に入ったことを示す記録はないと述べ、アントニーニが8月6日に同レセプションに出席したことを否定した。

（ハ）28日、ノバティ亜連邦判事は、9月4日に亜が米国に対して行ったアントニーニの引渡し要請に関し、現金密輸の容疑に加え、新たにマネーロンダリングに関与した容疑で、改めてアントニーニの引渡し要請を行うために、亜外務省を通じて在米亜大使館に引渡し要請書を送付した。2008年1月1日、同要請書を受領した在米亜大使館は、米国国務省法務局に対して、同要請書を手交の上、二度目となるアントニーニの引渡し要請を行った。

4. スペイン

13日、フェルナンデス大統領は、大統領府において、亜を訪問中のスペインのラホイ民衆党党首と会談を行い、二国間関係、亜における西系企業の現状等について話し合い、ラホイ党首は、西は亜において2番目に重要な投資国である旨強調した。会談後、ラホイ党首は、亜の利益を擁護するための（フェルナンデス）大統領の情熱とエネルギーを称賛する旨述べるとともに、「自分が次期総選挙に勝利した暁には、亜と可能な限りより良好な二国間関係が持てるだろう。民衆党にとって、外交政策の最優先は、イベロアメリカとの関係になるであろう」旨述べた。

5. マルビーナス諸島領有権問題

(1) 13日、亜政府は、英国政府に対し、マルビーナス諸島、南ジョージア諸島、南サンドイッチ諸島及び周辺海域の領有権を改めて主張するとともに、同日にEU諸国によって署名されたリスボン条約(EUの運営規則を定めた新基本条約)の領域リストに、同領域が含まれていることについて、外務省を通じて抗議を行った。

(2) 19日、亜の議会において、リスボン条約の領域リストに、マルビーナス諸島、南ジョージア諸島、南サンドイッチ諸島及び周辺海域が含まれていることを非難する決議案が承認された。

6. イスラエル

(1) 14日、タイアナ外相は、亜を訪問中のSheetritイスラエル内相と会談を行い、二国間関係、共通の関心事項及び多国間にまたがる地域問題、特に中東問題について意見交換を行った。両者は、二国間関係が素晴らしい状況にあることを強調し、政治、経済及び文化面での両国の繋がりを深めていくことで意見が一致した。

(2) また、タイアナ外相は、キルチネル前大統領が2007年9月の国連総会演説で述べた通り、亜政府が、1994年のイスラエル共済組合(AMIA)会館爆破事件の真相究明を行い、犯人に法の裁きを受けさせる意思を有しており、右を実現させるため努力している旨強調した。

7. 第34回メルコスール首脳会合

(1) 18日、モンテビデオにおいて第34回メルコスールの首脳会合が開催され、「メルコスール加盟国首脳による共同声明」が採択された他、メルコスール及びイスラエル間でFTAが締結された。

(2) 同会合に出席したフェルナンデス大統領は、ウルグアイから亜に議長国が引き継がれる際の演説で、「メルコスール諸国の課題は、メルコスールが真の関税同盟になるのを妨げている二重関税問題の解決であり、議長国の大統領として同課題に真剣に取り組んでいく」旨述べた他、生産部門統合及び再工業化にも取り組んでいかなければならない旨述べた。また、域内におけるエネルギー需給の一致を達成するため、ベネズエラのメルコスールへの早期正式加盟を支持する旨の発言を行った。

(3) 同会合の中で、メルコスール加盟国及び準加盟国の首脳は、マルビーナス諸島、南ジョージア諸島、南サンドイッチ諸島及び周辺海域に対する亜の領有権の主張を支持し、また、リスボン条約の領域リストに同領域が含まれることを非難し、拒否する決議を採択した。

8. 「強制失踪からの全ての者の保護に関する条約」の批准

(1) 14日、亜外務省は、亜が、11月14日に亜議会で承認された「強制失踪から

の全ての者の保護に関する条約」の批准書を国連本部に寄託し、米州で初の、また、世界で2番目の同条約批准国となった旨発表した。

(2) 2006年12月に国連総会において全会一致で採択された同条約は、2007年2月6日、パリで71カ国により署名された。本条約が発効するためには、同条約に署名した71カ国のうち、少なくとも20カ国の批准が必要となる。

9. ソマリアにおける亜看護師誘拐事件

(1) 26日、ソマリアにおいて、「国境なき医師団」のメンバーとして活動していた亜看護師バウサ女史及び西医師ガルシア女史が、同国北部Bosassoで武装勢力によって誘拐される事件が発生した。

(2) 2008年1月2日、両名は無事解放され、亜外務省は、人質解放のための交渉を支援した「国境なき医師団」、各国政府及び国際機関、特に、本件の無事解決に向けて緊密に連携した西外務省に感謝の意を表明した。

なお、両名を誘拐した武装勢力は、人質解放の条件として、25万米ドルの身代金を要求していたと言われているが、亜及び西両外務省は、身代金の支払いを否定している。

10. FARC人質解放オペレーション

(1) 26日、フェルナンデス首相及びタイアナ外相は、チャベス大統領のイニシアチブによるFARCの人質3名の解放オペレーションに、亜代表として、キルチネル前大統領を派遣することを決定した旨発表した。

(2) 28日、キルチネル前大統領は、亜政府代表として、他国の代表団と共に、人質解放オペレーションの保証人(garante)の役割を担うため、コロンビアのメタ県ビジャビセンシオ市入りした。しかし、FARCが予定通り人質を解放せず、また、ウリベ・コロンビア大統領が、コロンビア政府は人質3名の内、ロハス元副大統領候補の息子のエマヌエル君の身柄を確保している旨発言したことから、同オペレーションの先行きは不透明なものとなった。

(3) こうした状況下、31日、ビジャビセンシオ市を訪問したウリベ大統領とキルチネル前大統領をはじめとする各国代表団等が会合を行い、キルチネル前大統領が、各国代表団を代表し、今次オペレーションは困難に直面しており、この状況下において、各国代表から成るミッションは、コロンビアにおける滞在を一時的に中断することを決定した旨発表した。

(4) キルチネル前大統領に同行した亜政府関係者によれば、キルチネル前大統領は、コロンビア滞在中、今次オペレーションへの参加に満足の意を表明し、亜代表団の派遣は失敗ではない旨何度も強調した他、ラ米5ヶ国(亜、伯、キューバ、ボリビア、エクアドル)及び仏・スイスが人道的な仕事のため、手を結んだことは評価すべきであると述べ、同オペレーションのイニシアチブを取ったチャベス大統領を賞賛した。

また、同亜政府関係者は、「(今次オペレーションへの参加は、)亜が求める、国際

舞台において主要な役割を担うことへの大きな一歩である」旨述べた。

(5) 他方、野党は、キルチネル前大統領の同オペレーションへの参加について、人道的な観点からは肯定的な評価をしつつも、「チャベス大統領のイニシアチブに対し、亜はより慎重になるべきである」、「亜は、ベネズエラ人企業家の未申告大金所持問題で泥沼に陥り、今、ベネズエラとコロンビアの争いに関わってしまった。政府は、外交政策をよりよく練るべきである」等の批判的なコメントを行った。

1.1. 要人往来

(1) 来訪

12月9日	南米銀行設立に関する合意書への署名式
12月9－14日	Sheetritイスラエル内相（タイアナ外相との会談等）
12月10日	フェルナンデス大統領就任式（各国首脳等が出席）
12月13日	ラホイ西民衆党党首（フェルナンデス大統領との会談）
12月27日	マンテガ伯経済相（ルストー経済相との会談）

(2) 往訪

12月17－18日	フェルナンデス大統領のウルグアイ訪問（メルコスール首脳会合への出席）
-----------	------------------------------------